

## 米沢市長講演（令和5年連合後援会総会）

皆さん、こんばんは。

そして今日は、米沢のりひさ連合後援会、とかち幸せきつとね会総会にお集まりいただきましたこと、心からお礼申し上げます。

皆さんのお陰げをもちまして、昨年4月に四期目に入ることができました。今日は、2月20日なので、ちょうど10ヵ月が経ったところです。

この間、新型コロナウイルス感染症の流行、地球温暖化の進行やウクライナ問題で顕著になりましたが、食料安全保障の懸念、さらにはエネルギー危機で、我々が幸せ、そして安全・安心に暮らす上で、色々と脅かされる事態が発生しています。

今の時代を考えると、経済発展を重視した社会に潜在していた諸問題がここへ来て、一気に噴き出してきたと言えます。

地球環境をしっかりと保全していかなければならない、その一方で、経済成長、社会活動も維持していかなければならない。この二つを両立し、その上でみんなが幸せに生きていく、これは大変なことだと思います。

経済と環境、暮らしがお互いに負荷を掛けあって、お互いに我慢していくことに、みなさんも大分疲れてきていると思っています。

何とか調和のとれた関係性を作っていかなければならないと思いますし、そのために必要なのであれば今まで無かったものを創っていかなければならないと思います。

新しい価値というのでしょうか、そういうものを創っていく必要性を今まさに強く意識されている時だと思っています。

帯広市は、故吉村博市長のときに初めて「総合計画」を策定しました。それ以来、「都市と農村の調和」を基本理念に据え、そして真ん中にあるのは、常に「人」でありました。

「人」を真ん中において自然を大切にしながらまちづくりを進める、これが帯広市の最初の総合計画から脈々と続いていることだと感じております。

私は13年前に、皆さんのご協力、ご支援をいただきながら市長選に出たわけですが、その時に「フードバレーとかち」という旗を挙げさせていただきました。

それは、とかち・帯広が持っている「食と農と自然」、この三つが未来の価値を創っていくと直感したからであります。

そういう中で、「フードバレーとかち」という旗印をもって地域の魅力というものを外に発信してきました。そして、人と投資をこの地域に呼び込まなければならぬ、とかち・帯広に新しい仕事づくりをしなければならぬ。そういう思いで色んなチャレンジをしてきたところであります。

おかげ様で最近、域内外で「フードバレーとかち」や、新しい農と食を中心とした仕事づくりということに共感をしていただける方が随分増えてきました。つまり、とかち・帯広の可能性というものを信じる人たちが、増えてきた。そういう人たちが帯広を訪れてくれるようになり、またはここに居を構えるといいですか、移住してくれる人の数が増えてきています。

経済が発展していくために一番大切なのは「交流」という流れを作ることだと、これまでもずっと感じていました。

地域を発展させるということは、「人の流れ」、「ものの流れ」、「情報の流れ」これをどうやって作るかだと思います。

今こうして出てきた活力を推進力に変えながら、私の公約にも挙げましたが、「フードバレーとかち

のニューステージ」に向けて、新しい十勝の未来を作るために、この10か月間チャレンジしているということをまず皆さんにお伝えいたします。

先週の金曜日（2月17日）に来年度（令和5年度）予算を発表させていただき、その中の主要政策をまとめたのが、今お手元にある資料で、既に帯広市のホームページにアップしてあります。

## 令和5年度予算 主要な施策

～ あおあお ひろびろ いきいき 未来を信じる 帯広 ～

### 01 ともに支え合い、子どもも大人も健やかに暮らせるまち

- 老人クラブ活動費補助金の見直し (14,221千円)
- 出産・子育て応援給付金の給付 (106,280千円)
- 児童保育センターの運営 (815,413千円)
- 新規開設：東児童保育センター分室 稲田児童保育センター分室
- 子ども医療費助成制度の拡充に向けた準備 (16,942千円)
- 屈折検査機器の導入 (1,912千円)
- 弱視の早期発見及び早期治療に向けた屈折検査機器の導入
- 新生児聴覚検査費用の助成 (5,713千円)
- 聴覚障害の早期発見及び早期療育に向けた検査費用の助成



<視覚検査のイメージ>

### 02 活力とにぎわいと挑戦があるまち

- 消防団詰所・農業センターの複合化施設整備に向けた設計 (23,740千円)
- 森林整備の促進 (43,132千円)
- 高性能林業機械の購入に対する補助等
- 事業創発の加速化 (53,402千円)
- フードバレーとかち人材育成
- とかち・インベーション・プログラムの実施
- 十勝ドリームマップ会議の開催
- 事業創発拠点「LAND」の管理・運営等
- フードバレーとかち構想の推進 (11,268千円)
- 十勝の食の高付加価値化、学び直しを支える環境づくり支援、地域マーケティングの実施等
- 第35回国際農業機械展の開催 (14,900千円)
- フードバレーとかち食彩祭2023の開催 (4,500千円)
- アドベンチャーツーリズムの推進 (8,174千円)
- 広域観光周遊の促進 (1,500千円)
- とかち帯広空港の整備【一部3月補正】誘導路改良工事等 (672,761千円)



<体験型観光風景のイメージ>

### 03 ともに学び、輝く人を育むまち

- 不登校児童生徒に対するオンライン学習プラットフォームの導入 (4,397千円)
- 小学校机・椅子の更新 (4,337千円)
- 教材備品の整備 (13,598千円)
- ICT教育環境の整備 (3,432千円)
- 中学校におけるプログラミングコンテンツの導入
- 学校施設の長寿命化 (370,404千円)
- 旧大空小学校校舎・体育館等の解体 南町中学校整備の基本設計
- 文化ホール小ホールの椅子更新 (34,721千円)
- 馬ふれあい舎の整備 (102,172千円)
- 動物園ビスタセンター等の整備 (20,571千円)
- 動物園内の園路整備 (20,230千円)
- 全国高等学校総合体育大会の開催 (14,500千円)
- 学校給食の食材価格高騰分の補填 (56,600千円)
- 学校給食を通じた食育の推進 (3,515千円)



<馬ふれあい舎イメージ>

### 04 安全・安心で快適に暮らせるまち

- 地域防災の強化 (148,530千円)
- 地域防災無線更新の基本設計 指定避難所の環境整備
- 除雪用官貸車の更新 (40,766千円)
- 道路舗装の補修【一部3月補正】 (292,853千円)
- インフラの整備【一部3月補正】 道路、街路、公園、上下水道 (3,370,533千円)
- 公共施設の長寿命化 (535,117千円)
- 橋りょう、公園、公営住宅、下水道
- 帯広少年院跡地の土地利用調査 (20,000千円)
- 自転車利用環境の整備 (70,796千円)
- 中島緑地の整備 (58,878千円)
- 住生活基本計画の策定 (3,112千円)
- 高規格救急自動車 (879,364千円)
- 大空団地4街区（丘）の建替え等 (48,599千円)
- 救急・消防車両の更新 高規格救急自動車、水槽付消防ポンプ自動車、小型動力ポンプ積載車
- 終末処理場の施設改修 (145,000千円)



<高規格救急自動車>

### 05 多様な主体が活躍する地域社会の形成・自治体経営の推進

- 行政情報システムの改修 (22,844千円)
- 国が示す自治体標準準拠システムへの移行に向けた機能比較分析等の実施
- 地域情報化の推進 (8,781千円)
- 自治体DXや地元企業のDX化を推進 市民向けデジタルサービスの導入検討
- （仮称）帯広圏デジタル推進ビジョンの策定
- 生活館の改修 (56,261千円)
- 姉妹都市との周年事業 (18,160千円)
- 徳島市締結40周年、松崎町締結45周年、スワード市締結55周年等



※1 事業費には3月補正予算による繰越（予定）額を含む ※2 ☆新規事業、○拡充事業 ※3 事業費については総額を記載

一番上右側に「あおあお ひろびろ いきいき 未来を信じる 帯広」と書いてありますが、これは第7期の総合計画のキャッチフレーズです。

市長は、公約で約束したこと、それから総合計画に定めたことをしっかり進めていくことが大変重要な仕事です。

ともすると皆さんから、「今年は何やるの?」、「今年が目玉は何?」などのご質問を受けるのですが、実はやることは、公約や総合計画で基本的に決まっています。

今まで約束をしていなかったことを急に始めるというのは、公約とは一体何なのだろうという話になりますし、総合計画を無視して市長は何でもできるのだと思われるのも困ります。

ですから割と総花的な予算だとコメントされることもありますが、既に公約や総合計画があるので、それをどういう形で施策として出していかというのが、予算であります。

資料に01, 02, 03, 04, 05まで番号を振ってありますが、これは、帯広市の総合計画の項目番号です。

◆「ともに支え合い、子どもも大人も健やかに暮らせるまち」というのが一つ目で、これに関係した主な予算を囲みの中に整理しています。

健康や医療は、ものすごく大切であります。高齢者の健康づくりですとか、保健事業・介護予防、こ

ういうことをしっかりと体制を作っていくのもこのカテゴリーです。

皆さん、関心のある子育て支援について、一部申し上げますと、「母子健康手帳」をデジタル化します。今日お越しの皆さんは、母子手帳というどのようにイメージされますか、紙の手帳でしょうか？今は、デジタル化して、スマホアプリになります。

例えば、母子に関する問い合わせをする場合、今までは、市役所に電話して、アポイントを取って、何月何日に相談に行きますのでという、どうぞとなります。

今まで、このような作業がずっと行われてきましたが、今後は、デジタル化してスマホでパッと開くと、市役所にこの部分で相談に行きたいとその日の日付、空いている日が全部出るので。

紙媒体だったものが変わっていく、その先駆けで母子手帳をデジタル化します。

新生児や乳幼児を対象とした検査体制も充実しますし、待機児童の解消に向けた学童の児童保育センターもさらに増やします。

子育て世代の経済負担の軽減を図るために応援給付金を支給します。これは国からの制度ですが、実は所得制限というのが付いています。帯広市はこの所得制限を無くして、その足りない分を帯広市が負担します。

子供の医療費の補助制度ですが、これも所得制限を無くして拡充していきます。

ただこれは、今、自治体間で競争になっています。子供の医療費は、日本中どこ行っても同じでなくてはいけないと思いませんか？

本来は、国がやることだと思いますが、帯広市で子育てをされている方々の負担を考え、また、子供のために頑張りたいという気持ちは一緒なので、将来にわたる帯広市の財政状況を踏まえ可能な範囲として、所得制限を外して義務教育の間は、最大で一割の負担をしていただく形としました。

◆「活力とにぎわいと挑戦があるまち」です。

ここは、「いの一番」農林業です。生産基盤の整備、先進技術の導入支援など、これを我々忘れた瞬間に十勝の優位性が無くなりますので、農業経営の安定、強化に向けた取り組みをしっかりとやっていきますし、農業センターの整備も行います。

皆さんご存じの「ばんえい競馬」ですが、今年度は、570億円まで行きそうです。13年前を考えると、信じられない世界でありますし、500億円超えるというのは、道営競馬と同じサイズであります。

過去に一度苦しい思いをしておりますので、同じ轍を二度と踏まないように運営体制も含めた強化、公平・公正な競馬ができる体制をしっかりと作っていかねばならないと思います。

「儲かっているのになぜ体制を変えなければならないのか」など色々な声がありますが、私は、信念をもって、これからも安定的に運営できる競馬の体制づくりをここから一年でしっかり取り組んで参りますので、是非お力添えいただきたいと思っております。

今年は、国際農業機械展があります。4年ぶりです。これも大成功させなければいけない事業で予算付けをしております。

「トカプチ 400」、皆さん聞いたことありますか。「トカプチ 400」というのは、国でサイクリング

をするのに良いコースを、「ナショナルサイクルルート」という事で指定をしてくれたのです。「しまなみ海道」や「琵琶湖一周コース」など、ここは多くの外国人も来ていますが、これ指定の第1弾でした。

第2弾として、帯広市を中心にして八の字型のサイクリングコース400kmを去年指定されました。これから色んなお客様をお呼びするのに、整備をしっかりとやっていこうと思っています。今年知事も鳴り物入りでやっている、「アドベンチャートラベルワールドサミット」というのがありまして、外で色々遊びをやるものですが、これも帯広市もしっかりと関わることになっています。

◆「ともに学び、輝く人を育むまち」です。

特に学校教育についてですが、皆さんプログラミング教育を知っていますか？

僕は、実はどんなことをやるのかよく分からず、具体的にイメージが沸かなかったのです。東京や大阪に友人がいるのですが、幼稚園の頃からプログラミング教育の塾なんかに行っています。その人数もすごいのです。

ところが北海道は、どちらかというと遅れていますし、先生も教えられないのです。基本的なことだと思い、それで経産省の方とも話をし、経産省の指定している業者で東京・大阪などでやっているプログラミング教育を今度帯広市でもスタートできるようにしました。

少しおかしいことを言うかもしれませんが、昔、僕らの高校時代は、東大や京大はまず受けに行かなかったです。でも最近は、東大・京大をどんどん受けている。そして受かっています。僕らの時代は能力がなかったのだと思いますか？そんなことないと思います。情報格差、使っていた教科書も違いますし、塾だとか予備校というものもなかったです。

ですから、今すごく感じているのは、とかち・帯広の子供たちに教育インフラで遅れを取らせてしまったら僕らのせいだろうと、そうならないように僕らが何とか予算を付けることでカバーできるところがあつたら、それはやっておきたいというのが、実は今回のプログラミング教育の推進というところでもあります。

不登校の児童・生徒が増えています。この子供たちが、社会と隔絶されてしまうと大変です。みんな何かの事情があつてそうなっているのだと思うので、そういう子供たちが一人でも二人でも社会との接点を模索している時にサポートするため、不登校の児童・生徒の学びの場を仮想空間で作ります。一人でも二人でも、今誰とも会わなくなっている子が入ってきてくれたらいいなという思いでスタートします。

文化ホールの小ホールの椅子を全部綺麗にします。大ホールを何年か前に入れ替えました。これも皆さん乞うご期待であります。

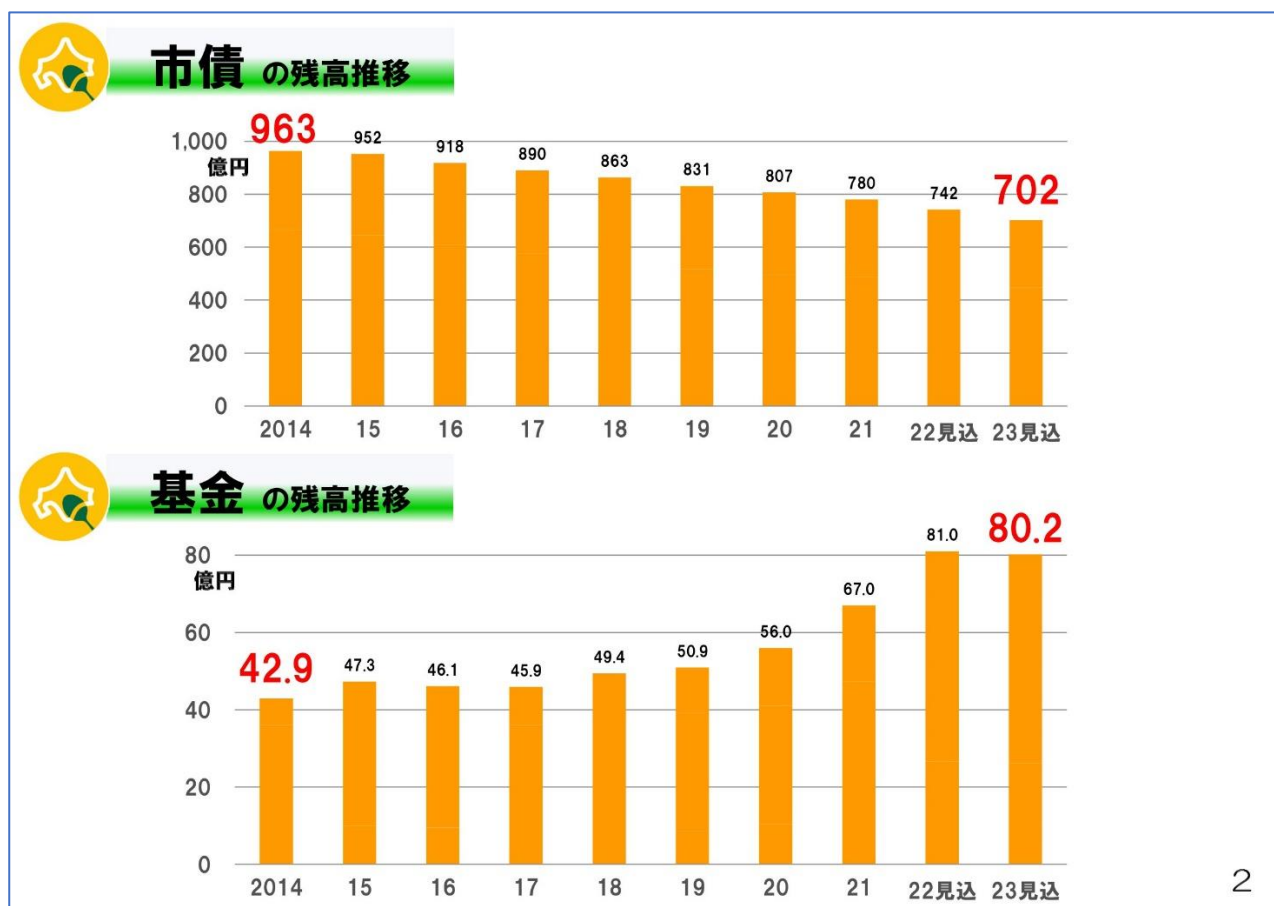
今年は全国の高等学校の総合体育大会があります。この土日に皆さん小さな子供たちが来た空手大会があり、お気づきになりましたか。ホテルがどこも取れない状況でした。

小学校の少年少女全国空手道大会です。親がみんな付いてきて、先生もいっぱい付いてきて、やっぱり先ほどの農業機械展もそうですし、高校総体では、女子サッカー、剣道とか何種目か行いますが、このような大きな大会を帯広市でやってもらえるようになりました。総合体育館が新しくなったのも、一つ大きな原因かなと思っています。

緑ヶ丘公園をしっかりとしたものに作り上げたい。もう一回みんなで見直して議論したいなと思っています。

ます。帯広少年院跡地をどうしていくか。令和6年、7年までに国の方と相談して、ある程度の方向性を出さなければならないので、それと合わせて緑ヶ丘公園全体のデザインを考えます。帯広の森そして緑ヶ丘公園は、我々の宝物で非常に大切だと思っております。市内で10か月間、議論をしてきましたが、色んな可能性を考えるとときに専門家の意見や色んな考え方も聴きたいということでコンサルタントを使います。これまた皆さんにも声をかけて、皆さんの意見も聴くようにしますのでよろしくお願いいたします。

資料の二枚目です。



2

皆さん「帯広市は元気だ」と言われることが多いと思います。

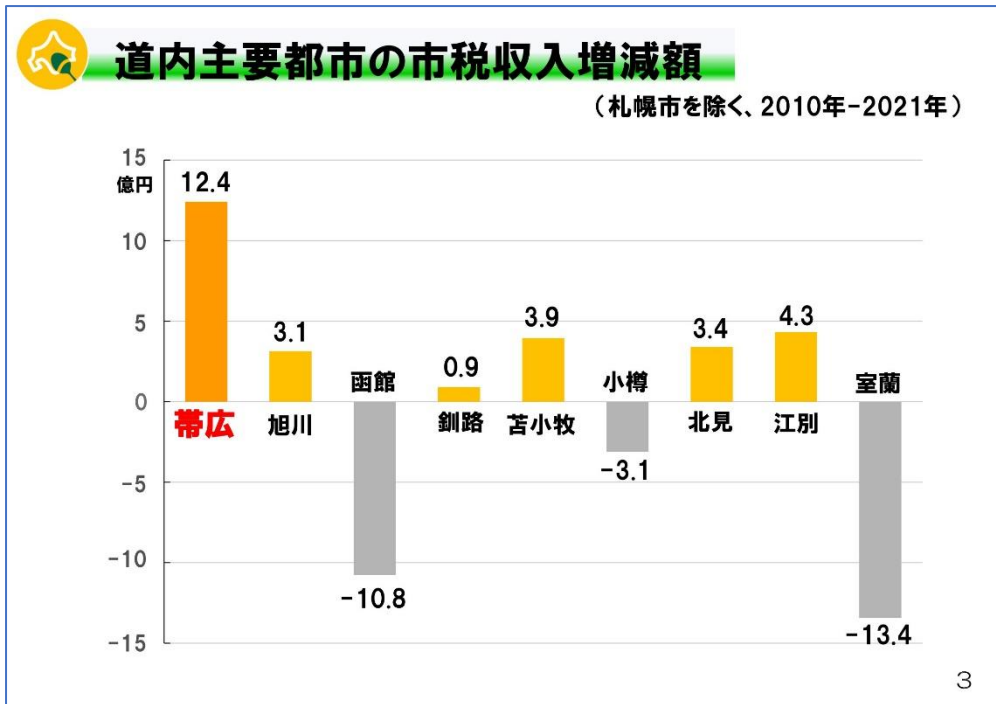
空手大会できた有名な方から「もう札幌と帯広だろう。これからの北海道は」と言われました。これは今までも多くの人に言われています。

資料を見ていただいたらわかりますが、市債、市の借金ですが、2014年の段階で963億あったのですが、皆さんのご協力をいただきながら700億まで減らしました。筋肉質な体にしたと思います。

それから基金、これは貯金だと思っていただいたらよいですが、40億ぐらいだったのが今2倍の80億までできました。それでも、例えば先ほどの子供の医療費を無料にすると、年間5億円かかります。80を5で割ってみてください。すぐに無くなってしまいます。

つまり、継続してやること、それに予算を付けるということはどれだけ覚悟がいるかということです。借金をしてやればよいと言われますけれど、その借金は必ず子供たちに負担がいきますので、家計と一緒にだと思えます。僕は堅実であるべきだと思っています。

次のページを見て下さい。



「道内主要都市の市税収入増減額」2010年と2021年の10年間の比較です。帯広市は圧倒的に多いです。函館市、室蘭市、小樽市が厳しいと言われるのはこれを見ただけでわかる。みんな人口が減っています。税金を払ってくれる人の数が減っているのです。でも、帯広市はこの10年間で比較する

ると増えているのです。これは、皆さんが頑張っていたからで、他所から持ってきたお金ではなく、皆さんが稼いだお金です。

次の資料ですが、「転入超過 続く」。「管内転出超過 14 町村」と書いてあります。

### 転入超過 続く

2022年の道内市町村の転入・転出超過数の上位 (単位:人)

転入超過		転出超過	
札幌市	8913	釧路市	1003
恵庭市	405	室蘭市	720
石狩市	333	函館市	692
南幌町	224	稚内市	475
七飯町	189	各寄市	437
江別市	188	根室市	433
帯広市	96	岩見沢市	404
当別町	69	登別市	383
北広島市	61	旭川市	381
美瑛町	52	士別市	296

(2023年2月1日 北海道新聞)

### 総務省 人口移動報告

十勝管内各自治体の人口増減(社会増減)

	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年
帯広市	96	314	354	▲143	▲117
旭川市	▲288	▲101	▲142	▲192	▲192
釧路市	▲20	43	▲53	▲2	▲2
小樽市	42	45	▲5	72	72
苫小牧市	13	▲53	▲44	▲31	▲31
北見市	▲52	▲92	▲55	▲51	▲51
江別市	▲23	23	▲54	▲28	▲28
室蘭市	▲33	▲48	▲81	▲13	▲13
稚内市	17	31	9	▲7	▲7
各寄市	18	20	▲3	▲48	▲48
根室市	17	▲27	▲52	▲12	▲12
登別市	▲82	▲30	▲117	▲88	▲88
当別町	29	▲22	▲3	▲71	▲71
美瑛町	▲56	▲82	▲43	▲44	▲44
士別市	▲14	▲37	▲42	13	13
岩見沢市	▲77	▲68	▲76	▲67	▲67
岩手町	▲43	▲36	▲83	▲53	▲53
滝川町	▲11	▲17	9	▲24	▲24
大井町	▲68	▲24	▲77	▲56	▲56
大井町	▲317	▲121	▲1055	▲819	▲819

▲はマイナス、総務省の資料

総務省がまとめた2022年の人口移動報告によると、十勝管内では帯広、土曜、土曜、中札内、大樹の5市町村が、転入者数が転出者数を上回る「転入超過」になった。帯広市の転入超過数は96人と、道内の自治体で7番目に多かった。一方、管内全体では転出者数が転入者数を上回る「転出超過」の傾向が続いている。(田島工業)

## 管内転出超過14町村

### 帯広は3年連続転入超過

(2023年2月9日 北海道新聞)

帯広は3年連続転入超過と書いてあります。自然減といって亡くなる方と生まれる方の差が自然

の増減で、人が引越してきてくれる、または出て行ってしまったというのが、ここに書いてあるものです。

左側の大きな図を見て下さい。転入超過というのは、出ていった人よりも外から入ってきた人の数が多いということです。右側が出て行った数が多いところです。

札幌市、恵庭市、石狩市、南幌町、江別市、当別町、北広島市、これはみんな札幌圏です。

そう見ると、帯広市は、96人で健闘しています。先ほど言いましたけれども、「人の流れ」が、とちち・帯広に向かっていると読み取れます。

右側の表を見ていただくと2021年は300人台だったのです。2020年には354人、人口（社会増）が増えています。

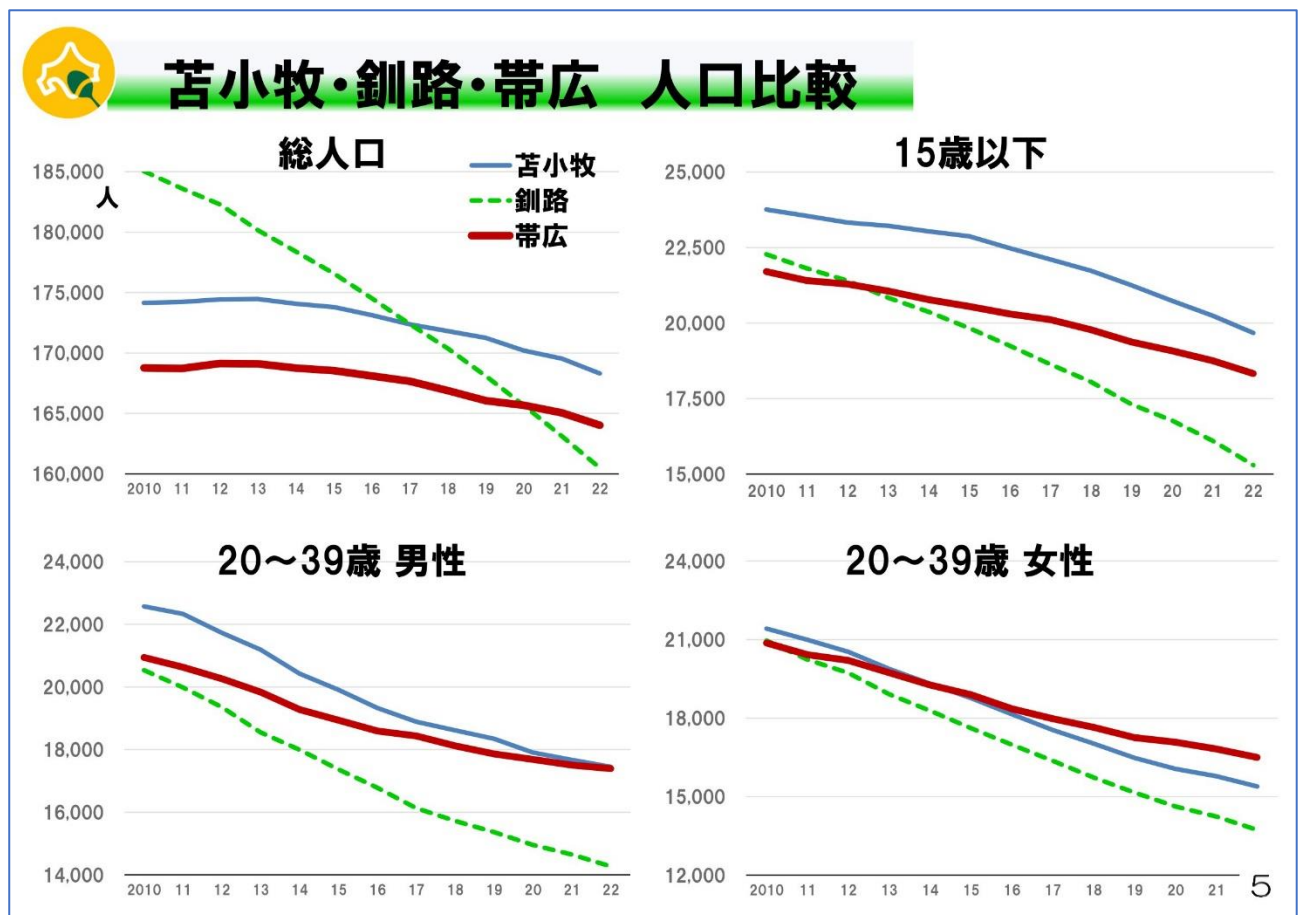
帯広市は3年連続して外から入ってくる人と出ていく人の差がプラスになっているということです。

食べ物おいしいだけでは来ないと思います。ここで何かやってみたいという気持ちになってくれる人が多いと思います。

転出を見て下さい。釧路市、室蘭市、函館市、稚内市、名寄市、市がいっぱい並んでいますが、これは今の逆さまの話になっています。そのまちにいても仕事がないということになってきているからだと思います。

来年はどうなるかわかりませんが、ここまで色んな流れが出てきておりますので、とちち・帯広、この地に人がもっともって来てもらえるような世界を作りたいなと思います。

最後のページになります。



苫小牧市、釧路市、帯広市は人口が近く、16万人前後で、その総人口の変化です。

一番上の緑の釧路市が2010年からこの角度で落ちます。苫小牧市も帯広市も実は同じような平行

線で来ています。苫小牧市の方が、帯広市より人口が多いのですが、15歳以下の人口を比較しますと釧路市は同じく右下がりです。苫小牧市もあまり大きく下がっていません。でも、20から39歳の生産人口の中の特に頑張って働いてもらわなくてはならない年齢ですが、ここで帯広市が苫小牧市と並ぶ格好になります。

一番うれしいのが次で、20から39歳の女性です。帯広市は2010年以降、苫小牧市を抜いているのです。苫小牧市をイメージするとトヨタなど色んな工場があります。北海道庁は、苫東を作ってそこに工場をいっぱい誘致しています。苫小牧市はそういう外からの人たちが増えて若い人もいますのだけれども、内情をこうやって見ていくと帯広市はなぜだろうかと思えます。

これまではっきりとわからない所がありますが、冒頭にお話したようにここには動きがあるのではないか。動きを感じる。そして農業と食というのは、今の時代、環境とこういうものに、僕らよりも若い女性たちがもうすでに反応していたのかもしれない。これまで皆さんと一緒に「フードバレーとかち」の展開をやってきました。「10年間のお前の成果は何だ」と言われたときに、実は一番出したいことです。

市長がやらなければならないことについて、実は市長になる前に東京の人に言われました。

「人口減らすな。税収上げろ。土地の値段上げろ。この3つでわかるのだ」と。

将来に可能性のないところに、土地の値段が上がるか。可能性のないところに人が住むか。人とお金やものの投資を呼び込む原因の大きな指標になる項目なのです。

札幌圏以外で土地の値段が一番上がっているのは、ニセコです。でもニセコともうひとつ東の方で光っているまちがありました。ここです。1市3町の土地の値段はこの3年間上がっています。人口がさっき見ていただいたような形で堅調な形になっていて、人の移動という面ではこうやって入ってきている。これが今「とかち・帯広が元気だよ」というときに出てきている現状だと思っておりますので、東北道道の核になるのは、間違いなく十勝だと思いますし、その中で帯広市がやらなければならないのは、ものすごくあると思います。

『「フードバレーとかち」のニューステージ』でやりたいのは、僕らの次の世代にもっと発展させてもらえるようなベースをちゃんと創っていきたいなと思っています。

そのためには、5年や6年、10年かかるプロジェクトでも、今からちゃんと種を蒔いていかなければなりません。2年、3年で花が咲くプロジェクトはそんなにないです。

先ほどの教育のこと、公園のこと、それから物流基地の課題がありますが、こういう農業の周辺でさらに生産性を上げていく、ここに人を呼び込むための種。今回、皆さんからいただいたご支援のお返しは、この3つの種をしっかりと蒔いて行くということでもあります。

改めてこれからのご支援を皆さんにお願い申し上げて、今日のお礼にかえたいと思います。

どうもありがとうございました。